1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団　聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	すみれ
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀６３－５		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成25年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	//www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionC

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成25年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が利用者1人1人を家族の様な思いで接することを心掛けている。一日一日を笑顔で過ごして頂けるように関わりを大切にし、お互い様の心の理念の下、お互いを認め合うこと、感謝の心を忘れないように関わっている。毎日のカンファレンスでは、利用者の立場で、意見を出し合いその人らしい生活が送れるよう、真剣に話し合っている。利用者が地域の一員と慣れる様、明日香での行事に地域の方を招いたり、畑で収穫した物を利用者とご近所に配るなど、より良い関係作りに心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

理念「お互いさまの心」を掲げ、介護現場での具体化された「明日香１０ヶ条」が日々の支援に反映され浸透している。施設長は、昨年職員から就任した為、職員との意思疎通が図られており、共に努力されている。玄関の施錠はなく、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するために職員の見守りと、利用者一人ひとりの個性を大切にして家族のような対応を心掛ける事により、鍵を掛けない取り組みをしている。職員は利用者の言葉に静かに耳を傾けたり、意思疎通の困難な利用者には優しく声をかける等、温かい気持ちのこもったケアの姿勢を見る事が出来た。また、地域との繋がりをも大切にし、互いにおすそ分けをしたりする間柄が作られている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お他互い様の心」の理念の下、お互いを認め合う事、感謝の心を忘れず、会議、カンファレンスを通じて意識付けし、日々前向きに取り組んでいる。	事業所の理念に基づく「日常の五心」「明日香の理念10ケ条」の介護方針を心にかけ、利用者に関わる際に意識して取り組んでいる。また、利用者のみならず家族や職員間でも実践され地域へと繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や、愛犬の散歩を通じ会話や、挨拶を心がけている。清掃、地域のお祭りには、必ず参加し、近所の方に野菜を頂くこともあった。	地域行事への参加や、公民館での講習・講座への呼びかけ、互いにおすそわけをする等、地域との関係を深めてる。ボランティア・中学生の福祉体験の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受入れや、運営推進会議を通じて、自治会の方の協力の下、公民館をお借りし、地域の方に向けてイベントを行った。地域の方から温かいお手紙をいただいた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回家族家族に手紙を出し定期的に運営推進会議を開催しいけんを頂きながら、検討や改善に努めている。	2ヶ月に1回開催され、多くの家族の参加や各関係者の出席で色々な意見を聞く事ができている。家族からの意見はサービスに反映し、町内会長から地域での行事紹介等もあり、地域との関係の広がりが実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加時や困った時に市の職員の方と行っているサービスや今後の改善点などを話し合っている。また市の介護相談員の方に月に1度来て頂いている。	市職員には事業所の状況報告を運営推進会議に参加した際に伝えたり、事業所の相談等にも応じてもらえるよう積極的に連携を図っている。月に一度介護相談員の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室に鍵を掛けず自由に出入りできるようにしている。L字柵を使用し安全に自分で開閉できるようにしている。勉強会などを通して職員の意識の共有をしている。	身体拘束についての勉強会を定期的に開催し、職員が身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し拘束のないケアを実践している。玄関は職員の見守りで施錠なく自由に出入りが出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や職員会議を定期的に行い虐待について学ぶ機会を設け、職員間でも情報・意識を共有し注意し合うことができており防止に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などに関する勉強会を行い学ぶ機会を設けているが、成年後見制度など実際に必要になった事はない。いつでも確認できるように資料を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて契約書や重要事項説明書、重度化における指針などを説明し、ご家族に理解していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中で思いや意見を聴けるように心掛けている。運営推進会議や意見箱を利用し、いつでも要望・意見を言っていただけるようなご家族との関係作りに努め、頂いた思いを活かしている。	「あすかだより」は奇数月「個人たより」は偶数月に発行されている。担当者が現在の様子を写真と書き込みをして家族に送付している。家族面会時、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議などで職員の意見をまとめ統一できるように話し合い取り組んでいる。管理者との個人面談や代表者との食事会でコミュニケーションを図っている。	施設長は、職員との関係が取れていて意見が出やすく、職員の話しを聴き柔軟な勤務体制等が就労の動機のひとつであるとの声が聞かれる。またケアの統一等全職員のスキルアップ向上の取り組みは職員から発案されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じた給与してくれており、やりがいのある環境になっている。また外部研修の費用の負担や介護福祉士・ケアマネージャーなどの資格取得の為の勉強会を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や必要に応じて外部研修に参加している。外部研修受講者は、勉強会にて得た内容を他職員へと伝えることで全員が理解できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時や交流会など通じ交流を深め、意見交換をする機会がある。訪問や見学、研修の受入れなど行い、サービスの質の向上に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者１人１人、センター方式などを活用し情報収集を行って職員が共有し、困っていることなどを改善できるように努めている。親しみやすい環境作りを行い、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしていただきながら、希望を伺い対応できるようにしている。センター方式を活用するこで、更に、ご家族の要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や本人の状況によって、可能な限り対応できるようにしている。訪問リハビリや訪問歯科を利用される方も多く必要に応じ、サービス利用を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、日常生活の中で関わりを深めている。家事や遊びの中で活躍できる場があり、職員が学ばせていただける事も多い。お互いに感謝し支え合うことのできる関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、お便りなどで近況報告をしている。行事で家族を招き食事をしたり、一緒に外出する機会を作り、ゆっくりと会話を楽しんだり、準備・片付けを手伝っていただき、繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に友人や近所の方に遊びに来ていただけるように協力していただいたり、また来たいと思っていただけるような雰囲気作りを心掛けている。	昔からの友人や家族の面会が多く、これまでの本人を取り巻く人間関係についてを把握すると共に、その継続が途切れないように時候の挨拶文や電話でのやり取りの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	１人１人の性格や好みなどの情報を共有し配慮や見守りをしている。会話が盛り上がるように職員が間に入ったり歌を唄ったりと環境作りにも配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院された際は、お見舞いに行ったり、亡くなれた際は、葬儀に参列させていただいている。また、退居後もご家族が遊びに来られたり、協力してくださる事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い情報収集に努めている。カンファレンスでは、日常の言動や状態から困っている事などを把握し、本人に合ったケアができるように努めている。	本人からの意向をもとにサービスの提供をしている。思いを直接言えない利用者にはセンター方式を用いて本人の気持ちに添えるケアができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族、他サービス事業者から情報をいただき、全職員で把握に努めている。入居後もその都度、ご家族から情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の「いつも」を知り、変化に気付く事の出来るように努めている。日常の表情や言動の変化を記録に残し情報を共有している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の思いを大切にする為、センター方式を利用している。カンファレンスを行い、情報を職員みんなで出し合い、意見を取り入れながら作成している。	担当者制を取り入れて一人ひとりの状況を細かく確認できるようにしている。カンファレンスの時は全職員、施設長を交えて計画の見直しを行い、家族の意見も確認しながらプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録や状況チェック表に具体的に記入し情報の共有ができるように努めている。事故や急変などの変化は、色を付けるなどし把握しやすくし、実践へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診は職員が行っているが、その他の受診は、ご家族に協力していただいている。本人やご家族の希望に応じてターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では、太鼓やバンド演奏など地域の様々なボランティア団体に依頼し来ていただいている。防災訓練では、消防署に協力依頼し指導を受けている。近くのスーパーへ買い物に行ったり、餅拾いなどに入居者と一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族の希望を確認し、同意を得て協力していただいている。週1回の往診や急変時には、医師や看護師に来ていただいている。	入居時のかかりつけ医の変更はしていないが、通院介助は家族にお願いをしている。看護婦が毎日来所し、相談・助言・対応ができ、利用者や家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、顔なじみの看護師に来ていただいている。バイタルチェックにて、その都度変化がある場合は看護師に確認し相談しやすい関係を築いている。急変時には、24時間体制で対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、付き添い本人の情報を細かく提供している。入院中には、お見舞いへ行くようにしている。退院時には、病院からの説明に立ち合わせていただいたり、情報をいただき退院後のケアを検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し話し合い同意を得ている。状況に変化があった場合には、医師・看護師と職員が連携を取り、その都度、ご家族と話し合い、安心していただけるように努めている。	契約時に重度化や終末期についての説明はを行っている。体調変化の時の家族との話し合いは行っているが内容を書式として残してはいない。	家族との話し合いは体調変化のある時に行われてはいるが、話し合いの内容は書式として残されていない。変化していく対応や記録の経過を説明できるような書面化の整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に助言や指導をいていただいている。職員による緊急時対応方法マニュアルを作成し、すぐに確認できるようにしている。毎月、その月にあったヒヤリハットや事故について全職員でリスクマネージメントを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルをもとに避難訓練を行い、ご家族や自治会の方、民生委員の方にも参加していただき、消防署から指導・助言をしていただいている。	年2回の避難訓練には自治会や民生委員・家族・地域住民の参加も得られている。2階建ての構造上階段を下りる訓練や、夜間想定訓練はまだ実施できていない。	利用者の安全確認を行いながら階段を下りる訓練や夜間想定訓練の早期実施ができるように期待したい。

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格や好みなどに合わせて声掛けをしたり、話を聞く環境を変えたりして対応している。個人情報は、漏洩してしまうことの無いようにしている。	本人が前向きになれるような言葉かけを常に心掛けている。一人ひとりに合わせてあえて敬語ではなく利用者の慣れ親しんだ言葉を使うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけや話しやすい環境作りに努めている。意思表示が上手く出来にくい人には、表情や言動から読み取る事や選択しやすいように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により、要望が聞かれた時には可能な限り対応するようにしている。本人の体調の変化や認知症の状態により対応できない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と美容院へ行かれたり、訪問理美容を利用し、本人やご家族の希望でカット、パーマ、ヘアカラーを行っている。本人やご家族の希望が聞かれない場合は、情報から「その人らしさ」を大切にするよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の出来る事を把握し、食事の準備・片付けを一緒に行っている。食欲がない時には、嗜好品やお粥、好みの物や食べやすい物で対応している。	平日の副菜のみ法人内で調理されたものを利用し、盛り付けや配膳を利用者と共に行っている。日曜日の献立の検討や調理を一緒に行うなど、食事を大切な活動の一つにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食欲などの変化を把握できるようにしている。食事量の減ってきている時は、嗜好品や好みの物で栄養が摂れるように配慮したり対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の力に合わせた支援方法で歯磨きや義歯洗浄を行っている。毎週、訪問歯科の往診があり、必要に応じて診ていただいたり、相談している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が、オムツ体験をして気持ちの理解に努めている。出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。状況チェック表を使用しサインや排泄間隔をつかむようにし、心地良く過ごせるように支援している。	水分や食物繊維等の摂取の支援や、排泄パターンを把握してできる限りトイレでの排泄支援に努めことにより、パットの使用枚数を減らすことができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに牛乳や乳製品を取り入れている。水分を多く飲んでもらえるように嗜好品や好みの味の物を用意し対応している。ポータブルトイレなども活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や個々の入浴状況を把握し嫌がる方には安心して入っていただけるような関わりをしている。また、入浴剤やショウブ湯、ゆず湯など季節や香り、色を楽しんでいただけるよう配慮している。	一人ひとりの入浴日は決まってはいないが、最低週２～３回は入浴するようにしている。同性介助や最初に浴槽で温まることを基本とし、シャンプーの嫌いな利用者への対応の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や言動から、体調や疲労などを読み取り、休息を取れるように配慮している。夜間、眠れていない時には、ゆっくり話を聞いたり原因を探り、安眠できる環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにて管理している。処方変更時には、全職員が把握するようにしている。個々に合わせた内服の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報や日常の会話から、本人の得意分野を活かしながら行いやすい環境を作り、関わりを持つよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブに出掛けられている。ご家族と協力しながら計画的に行い親睦を深めながら外食することもできている。	近隣のスーパーへの買い物や、犬の散歩で事業所周辺を歩いている。事業担当者がおり、年6回は施設だよりと個人便りを交互に送付しており、大きな行事計画の時は家族への協力依頼をしている。	

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理されている方もいるが、多くの方は、ご家族よりお金を預かり、当ホームで管理させていただいている。買い物などの支払いは、本人に行っていただけるように財布を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いをご家族や友人の方に送っている。電話は希望時やかかって来た際は、本人と大切な方とを繋ぎ、やりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節の花や飾り付けを行い季節を感じていただけるように配慮している。また、音楽を流したり季節に合った室温調整をし、快適に過ごしていただけるように心掛けている。	南向きの居間には明るい光が差し込んでおり、広い廊下の所々にソファーが置かれている。季節の行事のお雛様が飾られていたり、桃の花の飾り付けが季節感を醸し出している。換気の為廊下の隅の窓が寒くない程度に少しあけられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下のソファーや和室でくつろぐことができるようにしている。廊下のソファーからは外の花が見えたりと心地良く過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みの家具・寝具を使用している。家具の配置など、安全を考慮し、その都度本人やご家族に相談しながら、その時に合ったように工夫している。	入居前、自宅で使用されていた家具や雑貨類がおかれ、誕生日の集合写真や寄せ書きが飾られている。畳の部屋があり、利用者の意向や状態に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の関わりの中から、今できる事やわかる事を見極め、支援できるようにしている。個々に合わせた声掛けを行ったり一緒に行動をして本人の立場になって考えるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団　聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	ひまわり
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀６３－５		
自己評価作成日	平成25年1月27日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成25年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が利用者1人1人を家族の様な思いで接することを心掛けている。一日一日を笑顔で過ごして頂けるように関わりを大切にし、お互い様の心の理念の下、お互いを認め合うこと、感謝の心を忘れないように関わっている。毎日のカンファレンスでは、利用者の立場で、意見を出し合いその人らしい生活が送れるよう、真剣に話し合っている。利用者が地域の一員と慣れる様、明日香での行事に地域の方を招いたり、畑で収穫した物を利用者とご近所に配るなど、より良い関係作りに心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

※　複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お他互い様の心」の理念の下、お互いを認め合う事、感謝の心を忘れず、会議、カンファレンスを通じて意識付けし、日々前向きに取り組んでいる。	※　複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や、愛犬の散歩を通じ会話や、挨拶を心がけている。清掃、地域のお祭りには、必ず参加し、近所の方に野菜を頂くこともあった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受入れや、運営推進会議を通じて、自治会の方の協力の下、公民館をお借りし、地域の方に向けてイベントを行った。地域の方から温かいお手紙をいただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回家族家族に手紙を出し定期的に運営推進会議を開催しいけんを頂きながら、検討や改善に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加時や困った時に市の職員の方と行っているサービスや今後の改善点などを話し合っている。また市の介護相談員の方に月に1度来て頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室に鍵を掛けず自由に出入りできるようにしている。L字柵を使用し安全に自分で開閉できるようにしている。勉強会などを通して職員の意識の共有をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や職員会議を定期的に行い虐待について学ぶ機会を設け、職員間でも情報・意識を共有し注意し合うことができており防止に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などに関する勉強会を行い学ぶ機会を設けているが、成年後見制度など実際に必要になった事はない。いつでも確認できるように資料を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて契約書や重要事項説明書、重度化における指針などを説明し、ご家族に理解していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中で思いや意見を聴けるように心掛けている。運営推進会議や意見箱を利用し、いつでも要望・意見を言っていただけるようなご家族との関係作りに努め、頂いた思いを活かしている。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議などで職員の意見をまとめ統一できるように話し合い取り組んでいる。管理者との個人面談や代表者との食事会でコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じた給与してくれており、やりがいのある環境になっている。また外部研修の費用の負担や介護福祉士・ケアマネージャーなどの資格取得の為の勉強会を行ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や必要に応じて外部研修に参加している。外部研修受講者は、勉強会にて得た内容を他職員へと伝えることで全員が理解できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時や交流会など通じ交流を深め、意見交換をする機会がある。訪問や見学、研修の受入れなど行い、サービスの質の向上に努めている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者１人１人、センター方式などを活用し情報収集を行って職員が共有し、困っていることなどを改善できるように努めている。親しみやすい環境作りを行い、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしていただきながら、希望を伺い対応できるようにしている。センター方式を活用するこで、更に、ご家族の要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や本人の状況によって、可能な限り対応できるようにしている。訪問リハビリや訪問歯科を利用される方も多く必要に応じ、サービス利用を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いに寄り添いながら、日常生活の中で関わりを深めている。家事や遊びの中で活躍できる場があり、職員が学ばせていただける事も多い。お互いに感謝し支え合うことのできる関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、お便りなどで近況報告をしている。行事で家族を招き食事をしたり、一緒に外出する機会を作り、ゆっくりと会話を楽しんだり、準備・片付けを手伝っていただき、繋がりを大切にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に友人や近所の方に遊びに来ていただけるように協力していただいたり、また来たいと思っていただけるような雰囲気作りを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	１人１人の性格や好みなどの情報を共有し配慮や見守りをしている。会話が盛り上がるように職員が間に入ったり歌を唄ったりと環境作りにも配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院された際は、お見舞いに行ったり、亡くなれた際は、葬儀に参列させていただいている。また、退居後もご家族が遊びに来られたり、協力してくださる事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い情報収集に努めている。カンファレンスでは、日常の言動や状態から困っている事などを把握し、本人に合ったケアができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族、他サービス事業者から情報をいただき、全職員で把握に努めている。入居後もその都度、ご家族から情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の「いつも」を知り、変化に気付く事の出来るように努めている。日常の表情や言動の変化を記録に残し情報を共有している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の思いを大切にする為、センター方式を利用している。カンファレンスを行い、情報を職員みんなで出し合い、意見を取り入れながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録や状況チェック表に具体的に記入し情報の共有ができるように努めている。事故や急変などの変化は、色を付けるなどし把握しやすくし、実践へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診は職員が行っているが、その他の受診は、ご家族に協力していただいている。本人やご家族の希望に応じてターミナルケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事では、太鼓やバンド演奏など地域の様々なボランティア団体に依頼し来ていただいている。防災訓練では、消防署に協力依頼し指導を受けている。近くのスーパーへ買い物に行ったり、餅拾いなどに入居者と一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族の希望を確認し、同意を得て協力していただいている。週1回の往診や急変時には、医師や看護師に来ていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、顔なじみの看護師に来ていただいている。バイタルチェックにて、その都度変化がある場合は看護師に確認し相談しやすい関係を築いている。急変時には、24時間体制で対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、付き添い本人の情報を細かく提供している。入院中には、お見舞いへ行くようにしている。退院時には、病院からの説明に立ち合わせていただいたり、情報をいただき退院後のケアを検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し話し合い同意を得ている。状況に変化があった場合には、医師・看護師と職員が連携を取り、その都度、ご家族と話し合い、安心していただけるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に助言や指導をいていただいている。職員による緊急時対応方法マニュアルを作成し、すぐに確認できるようにしている。毎月、その月にあったヒヤリハットや事故について全職員でリスクマネージメントを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導マニュアルをもとに避難訓練を行い、ご家族や自治会の方、民生委員の方にも参加していただき、消防署から指導・助言をしていただいている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格や好みなどに合わせて声掛けをしたり、話を聞く環境を変えたりして対応している。個人情報は、漏洩してしまうことの無いようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた声かけや話しやすい環境作りに努めている。意思表示が上手く出来にくい人には、表情や言動から読み取る事や選択しやすいように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により、要望が聞かれた時には可能な限り対応するようにしている。本人の体調の変化や認知症の状態により対応できない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と美容院へ行かれたり、訪問理美容を利用し、本人やご家族の希望でカット、パーマ、ヘアカラーを行っている。本人やご家族の希望が聞かれない場合は、情報から「その人らしさ」を大切にするよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の出来る事を把握し、食事の準備・片付けを一緒に行っている。食欲がない時には、嗜好品やお粥、好みの物や食べやすい物で対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食欲などの変化を把握できるようにしている。食事量の減ってきている時は、嗜好品や好みの物で栄養が摂れるように配慮したり対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の力に合わせた支援方法で歯磨きや義歯洗浄を行っている。毎週、訪問歯科の往診があり、必要に応じて診ていただいたり、相談している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が、オムツ体験をして気持ちの理解に努めている。出来る限りトイレでの排泄ができるように支援している。状況チェック表を使用しサインや排泄間隔をつかむようにし、心地良く過ごせるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつなどに牛乳や乳製品を取り入れている。水分を多く飲んでもらえるように嗜好品や好みの味の物を用意し対応している。ポータブルトイレなども活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や個々の入浴状況を把握し嫌がる方には安心して入っていただけるような関わりをしている。また、入浴剤やショウブ湯、ゆず湯など季節や香り、色を楽しんでいただけるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や言動から、体調や疲労などを読み取り、休息を取れるように配慮している。夜間、眠れていない時には、ゆっくり話を聞いたり原因を探り、安眠できる環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにて管理している。処方変更時には、全職員が把握するようにしている。個々に合わせた内服の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報や日常の会話から、本人の得意分野を活かしながら行いやすい環境を作り、関わりを持つよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブに出掛けられている。ご家族と協力しながら計画的に行い親睦を深めながら外食することもできている。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理されている方もいるが、多くの方は、ご家族よりお金を預かり、当ホームで管理させていただいている。買い物などの支払いは、本人に行っていただけるように財布を渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いをご家族や友人の方に送っている。電話は希望時やかかって来た際は、本人と大切な方とを繋ぎ、やりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには、季節の花や飾り付けを行い季節を感じていただけるように配慮している。また、音楽を流したり季節に合った室温調整をし、快適に過ごしていただけるように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下のソファーや和室でくつろぐことができるようにしている。廊下のソファーからは外の花が見えたりと心地良く過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みの家具・寝具を使用している。家具の配置など、安全を考慮し、その都度本人やご家族に相談しながら、その時に合ったように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常の関わりの中から、今できる事やわかる事を見極め、支援できるようにしている。個々に合わせた声掛けを行ったり一緒に行動をして本人の立場になって考えるように努めている。		